

暗 中 模 索

山 田 陽 子

人には皆何らかの成長がある。その成長の形は千差万別であろうけれど、ものを見えた！

感情を持つてそのものを見たい！
このことが人を豊かにする。
“あ、どうしても忘れられない。そしてそれは心の隅に音や、波の視界をより身近に親しく感じること、ができる”

人間が唯一の感情動物であるとするならその有為なるものの成長過程を教えることは殺生に等しい。
石炭時代の壁面は今日記り知れない芸術の世界を造りあげている。宇宙の時代と呼ばれる標になつた科学の世界にしてもしかりである。日本へは月への賛美、この他強いて言われ、その幽玄の限りが伝説、童話の中で我々に直感となり一つも固定かに否定できない神妙を残している。月の科学の石が汚されこいと新聞に新えた高名を歌人も不憚で、月の石なるものも否心なく見せられ日々時代の移り目を平らかに

感じ、人間の計り知れない成長を新たな歌で飾るかも知れない。大きな意思をもつて人の先頭に立つこともなからう。我々にもやはり成長はある。例えどこの世のひびとりであれ、愛に酔い、想いに馳せり、走り、こぼれ、泣き、笑い、大いに飛躍したいものだ。そこには必ずや何かがある。
(86、11、14 記)

ユニオンバレーボール大会で
女 子 優 勝

スポートサークルバレー部

とうとう飛つた。栗田に勝つた。勝利の瞬間思わずコートにこぼれ出し、手をとり肩を叩きあつて喜んだ。みんなよくやった。本当によくやった。

去る十一月セリ、十六チームが参加して高津小学校で行われた八回家庭婦人バレーボール大会で由良Aチームは準決勝、決勝の四年連続優勝時、栗田は四年連続を連破して堂々たる優勝をなし、逃げた。それにしても栗田はやはり強かつた。特に準決勝では、才

一セットは取つたがヤニセットは22対20で敗れ、オニセットも15対8まで追いつめられた。もう絶望と思われた。それを逆転したのだ。ねばりにねばって見事に勝つた。これまでとかくピンチに弱かぬ由良のこの底力は会場を沸かした。確かに相手にミスもあり、こちらの運もよかつた。しかし何といつても勝利の原動力は日頃の練習、本位の球を打つたもの調子で打てば必ず返せるという安心感がどどんと場へ返りこまれてもみんなを不思議なまでに奮起させた。そしてこれが逆に栗田を苦しめた。

本年五月サークル総会以来雨の日も風の日も共に汗を流して練習に打ちこんだ仲間達という心のつながりが勝利となつた。見事な入会イッパツを挙げた選手、痛くなるまで手を叩いて応援した婦人会の役員さん、チームの為にベンチをわけてくれたサークルの選手、更には体育館建設にお力を下された大勢の人々、みんなの力が由良の底力にあつた。心がか合ひのこの喜びもまたらしたのだ。